

ちょうりいんさんたちは、あせびっしよりに なつても、やすみませんでした。

しよつきを あらうのも、おかずをつくるのも、とても じょうずに やつて くれます。

ちょうりいんさんたちが、いっしよけんめい つくつて くれた おかずを、のこしては いけないとおもいました。

たべた あとも、きれいに かたづけようと おもいました。

II ほたるの いのち



ばんごはんの あと、^{てれび}テレビを みて いたら、おとうさんが、

「あけみ、みんなで ほたるを みに いこうか。」
と いいました。あけみさんは、うれしくて、

「うん。いこう、いこう。」
と いいました。それから、かぞく みんなで たに川^{がわ}へ いきました。ほたるは、とおくの ほうで とんで

います。おとうさんが、たばこの
火で ほたるの まねを すると、
ほたるが なんびきか こちらへ
とんで きました。それで、三びき^{さん}だけ
つかまえて かえりました。へやを くらくして ほた
るを はなすと、ふわりと とびました。あけみさんは、
ほたるを みながら ねて しまいました。
つぎの あさ、めを さますと、ほたるは どこにも
みあたりません。でも、よるに なって くらくなると、
ほたるは へやの なかで とびはじめました。



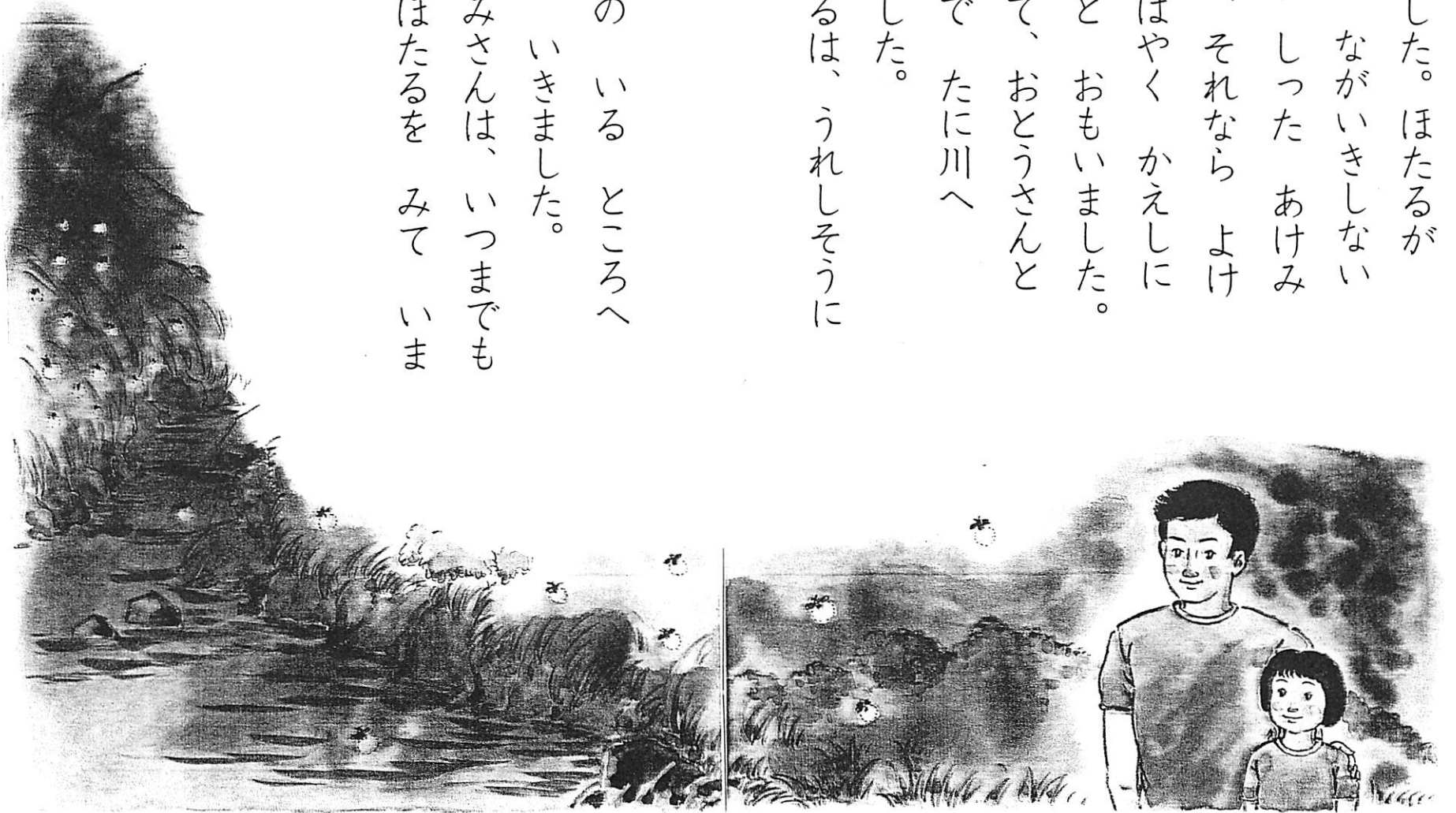
あけみさんは、ほたるを みつけて よろこびました。
しかし、その ほたるを じっと みて いる うち
に、なんだか ほたるが とても
さびしそうに みえました。
「おとうさん、ほたるを もとの
ところへ かえしに いかうよ。」
「どうして。」



あけみさんは、じぶんの きもちを おとうさんに
はなしました。すると、おとうさんは ふかく うなず
いて、それから ほたるの いのちの はなしを して

くれました。ほたるが
あまりながいきしない
ことをしったあけみ
さんは、それならよけ
いにやくかえしに
いこうとおもいました。
そして、おとうさんと
ふたりでたに川へ
いきました。

ほたるは、うれしそうに
なかまのいるところへ
とんでいきました。
あけみさんは、いつまでも
そのほたるをみていま
した。



11 ほたるの いのち

3-② 生きることを喜び、生命を大切にすることを。 (生命尊重)

① 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

生命を大切にすることとは、人間を含めて、すべての動植物の生命を大切にすることになる。ところが、殺伐としたニュース等が流れるこの現代社会において、生命を傷つけられている動植物を見たときに心から「かわいそうだなあ。」と感じる子どもが、数少なくなってきたように思われる。

そこで、自分の命を大切にするだけでなく、他人の生命、そして他の命あるものを大切にすることは低学年の頃からしっかりと育てていくことがとても大事だと考える。

〈子どもの実態について〉

子どもたちは自分の身近にいる動物等には興味関心がある。特に小動物や昆虫が好きである。

だから、自分のそばに置いて見ていたい、飼いたいという気持ちになる。しかし、その気持ちは、自分の都合が優先されることが多く、興味がうすれると、かわかりをもとうとしない。

すなわち、それは動物たちの命が人間と同じくらい大切だということに気付いていないからである。

〈資料について〉

ほたるが好きなあけみは、家族でほたるを見に行く。そして、きれいなほたるを見たときに、ほたるの命のことなど深く考えずに、ほたるをつかまえ、自分の家に持って帰る。

そのときはうれしくてたまらなかったが、だんだんと気持ちが沈んでくる。そして、父親からほたるの命の話聞いて、ほたるを谷川へ返そうという思いが深くなり、実行する。

ほたるにも大切な命があることを感じ、それならばもとの谷川へ返してあげようとするあけみの行動に共感させ、人間を含めて生をもつすべての動植物の生命を大切にしていこうとする心を養っていききたい。

② ねらい

自分の命と同じように、他の命あるものを大切にしようとする心情を育てる。

■ 板書

ほたるの いのち

「ほたるを みにいこう。」

たにがわ

へやのなか

おとうさんの はなし

ほたるの いのち

ながいきしない

たにがわへ

さびしそう

ここが

いやなのかな。

かわいそう

やっぱり

はやく かえして

あげよう。

うれしいな

きれいだな

いつばいるな

つかまえたいな

つかまえて

よかった。

うれしそうだな

かえしにきて

よかった。

げんきに

してね。

③ 展開

| 学 習 活 動 | 支 援 上 の 留 意 点 |
|---|---|
| <p>(1) 自分が飼っている生き物について発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どんな生き物を飼っていますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・かぶと虫。 ○ 世話はどうしていますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・えさをいつもやっているよ。 <p>(2) 資料「ほたるの いのち」を読み、あけみの行動や考えについて話し合う。</p> <p>① 谷川でほたるを見ているときのあけみさんはどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいだなあ。 ・つかまえたいなあ。 <p>② 部屋にほたるをはなした後、あけみさんの気持ちはどう変わっていったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うれしいな。 ・毎日、ほたるが見えるよ。 ・でも、少しさびしそうだな。 ・谷川へ帰りたいのかな。 <p>③ 父の話聞いたとき、あけみさんはどんなことを考えたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっぱり、ほたるは谷川へ帰りたいのだ。 ・仲間のところへ、はやく返してあげよう。 ・ここにおいておいたら、はやく死ぬかもしれない。 <p>④ 谷川へほたるを返したとき、あけみさんはどんな気持ちでしたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほたるをここに返してよかった。 ・元気になかまと遊んでね。 | <p>飼っている生き物や、今までに飼っていたものについて、世話の方法も含めて発表し、ねらいとする価値にかかわる意識がもてるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主人公あけみの気持ちの変わり方に焦点をあてるようにする。 ・ 自分たちの経験を思い出し、あけみの気持ちに共感できるようにする。 ・ 部屋の中でほたるを見ているあけみの心の変化をとらえることができるようにする。 ・ 父の話聞いたとき、あけみのほたるを思いやる気持ちがより深まっていった理由を十分考えることができるようにする。 ・ とんでいくほたるを見送っているあけみの気持ちに共感し、命を大事にする大切さを感じることができるようにする。 ・ 今まで自分が興味をもって飼ったことがある生き物の死に出会った体験を思い出し、そのときの気持ちや、今の気持ちを話せるようにする。 ・ 作文集等の中から、ねらいにせまり、より高められそうな作品を選んでおく。 |
| <p>(3) 自分たちの生活について深く考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どんな気持ちで動物を飼っていますか。大事にしようと思うのはどんなときですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・かぶと虫が死んだとき、つらかった。 ・バッタをかごの中に入れて、そのまま置いておいたら、全部死んだことがある。にがしてやればよかった。 ・とんぼをにがしてあげたら、うれしそうだった。 <p>(4) 教師の説話や友達作文等を聞く。</p> | |